

MitsuiSougou通信

線状降水帯

最近よく耳にするようになった線状降水帯は、一体どのようなものかご存じでしょうか。線状降水帯は、大雨により土砂災害や浸水など大きな被害を及ぼします。天気予報で耳にする時にはすでにかなり危険な状況にあることもある線状降水帯。その危険性や発生要因、発生した際の対処方法などについて詳しく説明していきます。線状降水帯の予測が発表されたとき、どのように動けば良いのか確認しておきましょう。



「線状降水帯」とは？

線状降水帯には、正式な定義はありません。気象庁においては、線状降水帯を「次々に発生した積乱雲が、帯状に連なり数時間にわたり同じ場所に停滞もしくは通過し作り出される雨域」としています。その領域は、長さ約50～300km、幅約20～50kmの範囲です。

積乱雲は単発で発生した場合でも大雨を降らせませんが、長くても1時間ほどで雨は止みます。大雨だとしても降雨時間が短い場合は、災害レベルになることはほとんどありません。しかし線状降水帯の場合、積乱雲は単発ではなく次々に発生し、数時間で平年の1ヵ月分の雨を降らせることがあります。そのため、線状降水帯が発生した場所では浸水災害や土砂災害などが発生しやすくなり、大きな被害を生んでいるのです。

線状降水帯が危険な理由

単発でも、雷や急な大雨、竜巻などを引き起こし、建物や人への被害を与える積乱雲。その積乱雲がいくつも続いて発生し、通過や停滞する線状降水帯では、さらに大きな被害が引き起こされます。

線状降水帯は、その発生メカニズムがはっきりと解明されていません。いつ発生するのか予測が難しいことに加え、急激に状況が悪化することから、線状降水帯が発生してから情報が発信される方針です。

ゲリラ豪雨との違い

ゲリラ豪雨とは、発達した積乱雲が、短時間に局所的に降らせる激しい雨のことで、時には雷や突風を伴う場合もあります。線状降水帯との違いは、積乱雲の数や雨を降らせる範囲です。線状降水帯では複数の積乱雲が発生しますが、ゲリラ豪雨で発生する積乱雲はひとつです。

線状降水帯による大雨の対策

高いところへ避難

大雨による被害は、住んでいる地域により危険性や種類が異なります。住んでいる地域が、河川の近くや低地の場合には、浸水や洪水に巻き込まれる危険性が考えられます。避難所へ避難することがすでに危険な場合には、2階建ての住居なら2階へ、マンションやアパートの場合には上層階に避難しましょう。

土砂災害の危険がある場合は離れた場所へ避難

山沿いなどの土砂災害の危険が高い場合には、可能であれば土砂災害の危険が低い地域へ避難することが望ましいといわれています。しかし避難が遅れた場合には、崖とは反対側の部屋に避難し、より安全な場所に移って危険が過ぎるのを待ちましょう。

高齢者などは警戒レベル3で避難開始

警戒レベル3とは、大雨警報や洪水警報が出されている段階で、災害の状況が悪化する可能性があると考えられているタイミングです。ほとんどの場合で、風雨がまだあまり強くないため、高齢者などの災害弱者は避難しやすいと考えられます。また親などの家族が災害の危険地域に住んでいる場合には、直接連絡をして避難を呼びかけることも大切です。

気象情報や自治体の避難情報をチェック

まず普段と比べ、大雨の災害が起きる可能性が高いことを念頭に置いて行動しましょう。スマートフォンやテレビなどで、気象情報をこまめにチェックすることが大切です。また家族や近所の方と相談したり、自治体からの避難情報に耳を傾けたりして、必要時すぐに避難できるように準備を進めましょう。貴重品や着替え、食糧など避難所へ持って行くものの準備をしておくことと安心です。普段から3日分の食料の準備をしておくことと安心でしょう。



安全運転アドバイス ～雨天時の安全走行の基本～

雨天時の走行にはさまざまな危険が伴います。特に豪雨時は視界が極端に悪化するうえに、道路冠水などの特有の危険が生じます。そこで、豪雨時の運転上の注意点や雨天時における安全走行の基本についてまとめてみました。

雨の降り始めは傘のない歩行者や自転車に注意する

雨が降り出したとき、傘のない歩行者は、先を急ごうとしたり雨宿りをしようとして、車の有無をよく確認せずに道路を横断してることがあります。傘のない自転車の場合も同様で、スピードを上げて急に道路を横断したり、後方の確認をせずに急に車線を変更することがあります。雨の降り始めは、歩行者や自転車が予想外の行動をとるということを頭に入れて、歩行者や自転車の動きにもよく目を配りましょう。

また、舗装道路は雨で濡れると表面のほこりが浮きあがり、ちょうど路面に油をひいたような状態になるためスリップしやすくなりますから、雨が降り始めたら、すぐにスピードを落とし車間距離も長くするようにしましょう。

カーブでは手前で早めにスピードを落とす

雨天時のカーブもスリップしやすくなります。しかも視界が悪いため、カーブのきつさがわかりにくく、急ブレーキや急ハンドルの危険が高まります。晴天時以上に慎重に、カーブの手前で十分スピードを落とし、カーブ走行中のブレーキ操作はできるだけ控え、ハンドル操作も最小限にして走行しましょう。



追越しはせず進路変更もできるだけ控える

急ハンドルや急加速を伴いやすい追越しは、路面の滑りやすい雨天時にはスリップを招くおそれがあり非常に危険ですから避けましょう。また、進路変更もハンドル操作を誤るおそれがあることに加えて、サイドミラーが水滴などで見えにくく後続車を見落とす危険がありますから、できるだけ控えましょう。

雨が激しくなったら運転を中断する

ワイパーを最速にしてもフロントガラスの雨滴が拭い切れないほど雨が激しくなってきたときは、運転を一時中断して安全な場所に車を止め、雨がおさまるのを待ちましょう。待機のために道路の左端に寄って駐車すると、視界の悪さから後続車に追突される危険がありますから、必ず駐車場などの安全な場所に駐車するようにしましょう。

◆おいしいレシピ◆ ～レンジ蒸し鶏～

野菜をたっぷり添えサラダ感覚でどうぞ！

【材料】2人分

・鶏むね肉 1枚 (200g) ・きゅうり 1本 ・トマト 1個
【A】・酒 大さじ2 ・水 大さじ2 ・塩 小さじ1/2
【ごまだれ】・練りごま (白) 大さじ2 ・しょうゆ 大さじ2
・砂糖 小さじ1 ・酢 小さじ2



【作り方】

1. 鶏肉は皮を下に置き、厚い部分は斜めに包丁を入れて開き、厚みを均等にする。皮を下にして耐熱皿に入れ、【A】を混ぜ合わせてふりかける。
2. ラップをふんわりとかけ、電子レンジ (600W) に約4分間かける。取り出してラップを外し、新しいラップをぴっちりとかけて約30分間おいて蒸らす。手で粗く裂き、耐熱皿に残った蒸し汁をよくからめる。
3. ボウルに練りごまを入れ、ゴムべらなどでよく混ぜる。香りがたったら残りの材料を順に加え、そのつどよく混ぜる。堅ければ、水大さじ1を加えて溶きのばす。
4. きゅうりは斜め薄切りにしてから細切りにし、トマトはヘタを除いて薄めのくし形に切る。器に2の蒸し鶏、きゅうりと、トマトを盛り、ごまだれをかける。